

酪農ヘルパーに技能実習生 中標津の派遣会社 ベトナム人3人採用 高い業務能力必要／日本語上達に懸命

野口今日子 有料記事

2024年11月6日 18:42

あとで読む

X

f

↑



酪農ヘルパーとして派遣された牧場で業務に励むベトナム人技能実習生



【中標津】根室管内で酪農ヘルパー事業を展開する「ファム・エイ」（中標津町）が、外国人の技能実習生を初めて採用した。ベトナムの3人で、牧場の力になっている。酪農ヘルパーは派遣先ごとに作業内容や機器操作の方法などが異なるため、高い業務能力やコミュニケーション能力が必要とされる。3人は業務のスキルアップと日本語の上達に懸命だ。

北海道酪農ヘルパー事業推進協議会によると、ヘルパー会社の実習生採用は「全道的にもまだ多くない」という。

同社はヘルパー確保に向け、全国各地の説明会に参加するなどしてきたが、従事者を容易に見つけられないのが実情だった。今後の人手不足を予測し、外国人材の採用を検討してきた。そうした中、町の「外国人材誘致推進事業」でつながりができたベトナムの送り出し機関と同社がマッチングし、3人の技能実習生を7月から受け入れた。

3人は母国の実家が農家を営むなど農業と関わりがあり、酪農を学びたいとの志を持って来日した。日本人の先輩ヘルパーと牧場を訪問し、仕事を覚えている最中だ。同社も酪農の仕事で使う用語をまとめた単語帳を作るなど工夫し、技術力向上を後押しする。

3カ月ほど経過した3人は「初めて行く牧場での仕事が難しい」と話すが、派遣先の牧場が仕事や日本語の教育に協力してくれていることもあり、楽しく働いているという。ド・コック・フンさん（20）は「酪農の仕事をもっと学び、日本で農家の手助けができるようになりたい」と意欲を語る。

管内でも休日取得を望む酪農家は多く、酪農ヘルパーの需要は高い。同社の長瀬豊社長は「日本語も習得して運転免許をとるなど、日本人と同じように働けるように育てたい。今後も技能実習生の採用を考えており、3人が後輩に教えられるようになることが目標」と話している。

（野口今日子）

わたしのニュース

好きな市町村やテーマのタグをフォローすると、最新記事が表示されます。フォローは[こちら](#)から。

PR

マッチングアプリと道がコラボ「北海道マラソン2024」でブース

ゲストに伊沢拓司さんが登場。専門家がGX(グリーン・トランスフォー

11月24日（日）「第2回将棋まつりin北海道」開催！佐藤千彦が参

【もっと知りたい住宅ローン】ママたちの不安や疑問にFPが答

アクセスランキング

11月7日 1:09 更新

- 1 コンクリート崩壊事故 死亡男性の身元判明 札幌厚別署
- 2 旭川出身の漫画家・藤田和日郎さん 「うしおとら」作者の異色作がミュージカルに<聞く語る>
- 3 「札幌のホテルに泊まらない！」 Xに相次ぐ悲鳴 週末にスノーマン、back numberらライブ 受け入れ態勢には課題も
- 4 【特集・開票速報】アメリカ大統領選2024 混沌の超大国
- 5 全国学力テスト 北海道内で地域差拡大 道教委が正答率発表